

入賞

自分以外の人のために行動すること

岩出中学校 1 年 奥野 仁依菜

もし、お年寄りの方が自分の前でたおれてしまったら、あなたはどうしますか？他人のために行動する事は、ちこくをする、自分が大切にしているものをあげる、使う、貸すなど、人のために行動するときには自分を犠牲にすることも稀にあります。それでも最初の問いに「はい」と即答できますか？私なら正直一瞬悩みます。元をたどってみれば自分の事ではなく、私には関係ありません。別にスルーしてもいいし、何かお願いされても断る権利は自分にあり、自分で判断する権利もあるのです。しかも、見返りがこないことだってあるし、助けてあげても、何か上手くいかないかもしれないのです。これほど深く考えると、「人助け」というものはとっても難しく、すぐに実行しづらいものなのです。そう深く考える機会はある日とつ然不意にやってくるのです。

よく晴れていて、自転車で登校するのが、気持ちよさそうな日の朝でした。私の家の前は、左右を見てみると、一直線になるような道になっています。左が中学校への道なのでいつも通り左へハンドルを切って少し進んだところで自分の忘れ物に気付いたので、急いでふり返り、家に戻ろうとしたら奥の方で、お年寄りの方がうつぶせて倒れていました。私は最初説明した通り悩みました。決して時間に余裕がある訳ではないし、もしちこくしてしまったら成績や点数なども落ちかねません。このまま中学校へ向かうこともできましたが、そんな事を考えている時にはすでに、自転車を端に停めてその倒れているお年寄りの元へ走り始めていました。いろんな不安を感じながら走りました。「もしこの今の一瞬の判断であの人が亡くなったら…」「私が駆けつけても意味はあるのか」など。ですが、絶対にあの人の命を救いたい。そんな一心で走りました。せめて意識があるかどうかだけでも確認しようと思い、そのお年寄りの方の元へ着きました。とにかく、意識があるか確かめたかったので、

「大丈夫ですか？」

と、声をかけてみました。そうすると、意識はあるようで、ほとんど聞きとれなくて、かすれたような声で

「はい、大丈夫です…」

と返事をしてくれました。少しだけ安心しました。その人が倒れている近くに杖が落ちていたので、足が悪く、転倒してしまったのだと察しました。その人をよく見ると右に住んでいるご主人でした。少し接点があるがゆえ、勝手に救急車を呼んでいいものなのか少しの間、声をかけつつ考えていたとき、近くの家の方が私の声に反応してくれたのか、玄関から出てきてくれて、救急車を呼んでくれました。私は学校もあるので近くの人に、

「私、おくれてしまいそうなので、行かせていただきます。」と伝え私は忘れ物を取りに行きました。手も震えてるし、まだ気が動転しているにもかかわらず無理に行こうとしたので、少し進んだところでいつも走りなれている道で、転倒してしまいました。ヘルメットをしていたので頭は無事でしたが、ひざをひどくすりむいてかなりの出血だったので、とりあえず母に電話し、「このまま学校へ向かうのは、危ないから家に帰って傷の治りようをしておく」ということになりました。その後、職場にいる母から連らくをうけた叔母が来てくれて私の心も落ちつきしました。次の日、その倒れた人の奥様からお礼の品と共に「命に別条はない」との報告を受けました。とても感謝されうれしかったけど、安心の方が強かったです。

さて、「自分以外の人のために行動すること」の大切さが伝わったでしょうか？本当に難しく、簡単ではありません。ですが、小さなことでもいいので自分以外のためにとにかく「行動」してみてはいかがでしょうか。